

令和 7 年 1 1 月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和 7 年 1 1 月 2 1 日（金）午後 2 時
(2) 閉 会 令和 7 年 1 1 月 2 1 日（金）午後 3 時 2 0 分

2 場 所 三木市役所 5 階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
第 2 会議録の承認について
第 3 会議の公開・非公開の決定について
第 4 第 9 号議案 令和 8 年度三木市立小学校・中学校・特別支援
学校県費負担教職員人事異動内申の方針につ
いて
第 5 協議事項 1 6 三木市立小学校、中学校及び特別支援学校の管
理運営に関する規則の一部を改正する規則の制
定について
第 6 報 告 事 項 各課（室）の所管事項について
第 7 その他
第 8 次回定例会の開催日程について

4 出席者

教 育 長	大 北 由 美
委 員	石 井 ひろ美
委 員	梶 正 義
委 員	稲 見 秀 行
委 員	西 岡 愛

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教 育 総 務 部 長	森 田 眞 規
教 育 振 興 部 長	山 口 正 明
教 育 総 務 課 長	田 中 栄 一

教 育 施 設 課 長	大 塚 芳 徳
生 涯 学 習 課 長	大 西 武 宏
図 書 館 長	河 端 康
文化・スポーツ課長	大 西 良 門
学 校 教 育 課 長	武 内 克 朗
教育センター所長	小 池 宏 尚
小中一貫教育推進室長	仲 谷 淳
教 育 ・ 保 育 課 長	荒 田 知 宏
教 育 総 務 課 係 長	三 觜 牧 恵
教 育 総 務 課 主 任	富 岡 憲 登

7 傍 聴 者 なし

開 会

教育長が、令和7年11月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、稲見委員及び西岡委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和7年10月定例会（17日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の公開・非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、公開で審議することを決定した。

日程第4 第9号議案 令和8年度三木市立小学校・中学校・特別支援学校
校費負担教職員人事異動内申の方針について

○武内学校教育課長が次のように説明した。

令和8年度三木市立小学校・中学校・特別支援学校校費負担教職員人事異動内申の方針について、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第1項第1号の規定により、委員会の議決を求める。

基本方針として、教職員が使命感と高い倫理観を持って職務に専念し、教育の基本方針の趣旨に配慮した学校づくりを推進するため、人事配置を行う。

人事配置に関する基本的な考え方は、以下の2点である。

1点目、「適材適所の配置」について、同一校における長期勤務者の異動等に留意して異動の内申を行う。

2点目、「人材育成の促進」について、全市的な視野に立ち、計画的な交流を積極的に進める。また、次世代の人材育成の観点を踏まえるとともに、小中一貫教育の推進を見据え、異校種間の交流に努める。

(梶委員) 内容等については特に異議はない。

次世代を担う教員を育成する観点で、人事異動については、10年後、20年後の三木の教育を考えながら実施していただきたい。

教育長が第9号議案について採決を行い、原案のとおり可決された。

日程第5 協議事項16 三木市立小学校、中学校及び特別支援学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

○武内学校教育課長が次のように説明した。

最初に制定の理由について説明する。

現学習指導要領に即した教育課程を実施するため、令和2年度から長期休業期間中の授業日設定を試行するとともに、令和4年度からは中学3年生の授業時数を確保するため、卒業式を高校入試の後に実施するなどの教育課程の工夫改善を行ってきた。また、令和6年度からは、新年度の始業に向けた教材整備や校務分掌の調整等の準備に要する期間を確保するため、第1学期の始業日を4月8日として試行してきた。その結果、長期休業期間中に授業日を設定しなくとも、標準授業時数を確保で

きる見通しが得られた一方で、新年度の準備期間については試行のとおり確保する必要があると判断したため、所要の改正を行うものである。

次に、改正の内容については、学年始休業日を「4月1日から4月6日まで」から「4月1日から4月7日まで」に改めるというものである。

また、施行期日は、令和8年4月1日である。

最後に、今後の予定については、本日の協議を経て、12月定例会に議案として提出する。

(西岡委員)教職員にとって新年度の準備が非常に大変であろうと察する。

準備期間が1日違うだけでも大きいと考える。

子どもたちも新しい学年に向けて、気持ちの準備等ができるよう、保護者として支えたい。

(武内学校教育課長) 学年のよいスタートを切ろうとしたときに、教材等の準備及び教室環境の整備のほか、業務が大きく変わる教員も多い。そのような中で、引継ぎをしながら準備を進めていくという意味においては、1日ではあるが、しっかりと体制が整えられると判断している。

日程第6 報告事項 各課(室)の所管事項について

(1) 教育総務課報告事項

○田中教育総務課長が次のように報告した。

第3回三木市教育振興基本計画検討委員会を10月31日に教育センターで開催した。その会議概要について報告する。

第4期三木市教育振興基本計画(案)について、10月17日に開催した10月教育委員会会議における教育委員の意見を踏まえ見直しを行ったものを、検討委員会の協議資料とした。

はじめに、「確かな学力の育成」に関する現状及び課題を記載した部分について、石井委員から前後の文章のつながりが悪く、分かりにくいという趣旨の意見があったことを受け、記載内容を改めた。

「キャリア教育の推進」に関する現状及び課題を記載した部分について、梶委員から、前半でさまざまな今後の生き方を考える取組を行っていることを記載しているにもかかわらず、最後の部分が「社会性や実行力を育む基盤づくり」で終わっていることが惜しいという趣旨の意見があったことから、「自己理解、社会理解を深め、将

来の生き方を考える実践的なキャリア教育を進めています」という記載に改め、表現をより具体化した。

「関係機関との連携の強化」については、石井委員から、ヤングケアラーについてどのような意味で理解を深めるのか分かりにくいという趣旨の指摘があったことから、「いまだ認知度が低いヤングケアラーについて、その周知及び理解を深める」という記載に改めた。

また、同じ「関係機関との連携の強化」については、石井委員から、タイトルが大項目と小項目で同じであるため、小項目のタイトルを変更してはどうかという趣旨の提案があった。これについて改めて検討したが、この部分の内容は、正に関係機関との連携の強化について記載しているところであり、また、兵庫県の教育振興基本計画である「第4期ひょうご教育創造プラン」においても、該当部分は大項目と小項目で同一のタイトルが使われていることも踏まえ、このタイトルについては変更していない。

最後に、「教育環境の整備と充実」に関する評価指標について、西岡委員から、中学校屋内運動場の空調設備の設置校数のみの記載では、全ての中学校で実施するものであるのか分かりにくいという趣旨の意見があった。これを受け、具体的な整備の進捗が直感的にイメージできるよう、設置校数から設置率に置き換えた。

以上の内容を踏まえて第4期三木市教育振興基本計画（案）として取りまとめ、検討委員会に臨んだ。

次に、検討委員会委員から出された主な意見について、4点紹介する。

1点目、「基本施策の評価指標について、市民から理解の得られる指標の取り方をしないと、少ない人数の主観的な満足度で事業を実施するということでは事業効果を表すのが難しくなる。評価指標の取り方を検討し、事業効果・事業評価がしっかりとできるような仕組みにしてほしい」という意見。

2点目、「評価指標の『前年度比増』という表現では、どのあたりを目標にしているのかが分かりにくい。何かしらの目標値を掲げるほうがよいのではないか」という意見。

3点目、「満足度の割合の分母や分子といった根拠となる数値について、点検・評価報告書の該当の評価指標の欄外に記載してほしい」という意見。

4点目、「『ウェルビーイング』の考え方を基に計画を立てているということが記載してあれば、計画がより分かりやすくなるのではないか」という意見。

以上4点の主な意見のうち、4点目の意見を踏まえ、計画（案）の基本施策に、「基本施策の評価指標については、市民の幸せや豊かさを感じられるウェルビーイング(Well-being)の考え方を取り入れ、当該政策を実施したことによる市民の満足度等が測られるものを主として設定することとします。」という1文を追加した。

これらの最終調整を行い、パブリックコメントを求める「第4期三木市教育振興基本計画」（案）として取りまとめ、併せて、同計画（案）の概要版を作成した。

最後に、今後の予定を報告する。

「第4期三木市教育振興基本計画」（案）に係るパブリックコメントの募集について、本市においては「三木市市民意見公募手続条例」を設けており、市が条例を制定したり、基本的な政策案などを決定したりする際に、必ず市民が意見を述べる機会を保障しなければならないこととなっている。

今回のケースでは、第4期三木市教育振興基本計画を策定する前に、同計画（案）の公表が条例により義務付けられていることから、条例の手続に従い、市民に意見を求めるものである。

募集期間は、11月25日から12月26日までである。

同計画（案）の閲覧場所は、市役所や吉川支所、各市立公民館等の窓口、市のホームページである。

（石井委員）計画（案）に意見が反映され、分かりやすい文章となった。

検討委員会委員の意見について、主観的な満足度で測るのはどうかという意見があったが、ウェルビーイングの考え方自体が、個々の幸福度を測るものである。しかしながら、ウェルビーイングを主眼に設定した指標の結果のみをもって次年度の計画に反映したり、点検・評価したりするわけではない。バランスよくさまざまな事業を実施した上で、ニーズに沿って多様な支援及び事業を実施することが本来の在り方であり、指標は重要なものではあるものの、参考の一つに過ぎない。

ただ、満足度を測られていない人々のニーズをどう抽出するか、また、多様な人たちに対する多様な支援がバランスよくなされている

るかについては、しっかりと考えていかなければいけないと感じた。

また、指標の目標についての「前年度比増」という表現であるが、具体的な目標は必要と感じた。どれくらい割合を上げるかという表現もできるのではないかと考える。

（田中教育総務課長）今回の評価指標については、ウェルビーイングの考え方を取り入れた満足度や、市民の幸せ、豊かさといったところに着目した従来にない指標を取り入れており、効果検証の仕方は考えていく必要がある。

ただ、これまでのような来館者数を指標としたのでは発展性がない部分もあった。このたびの指標では、データの取得方法は考えなければならないが、満足度を取ることによって、それが低かったら次はどうすべきであるのかというような改善策も見つかっていくと考えており、新たな施設の展開ができるのではないかと感じている。

兵庫県教育基本計画においても満足度を指標としているところもあり、県の満足度の把握の手法も参考としながら取り組んでいきたい。

（石井委員）検討委員会委員の１点目の意見について、ウェルビーイング自体は主観的なものであり、市民１人１人の満足度を高めていくという観点からの指標である。一方で、検討委員会委員の意見は、少ない人数で事業の成果を測ることが偏りを生まないか危惧するものである。ＩＣＴ機器等も活用し、指標として設定した事業だけではなく、分母が多い事業についても満足度を測るなど、より多くの市民の声に耳を傾け、指標の分母をより大きくする工夫が必要である。

（梶委員）これまで、評価は客観的な数値目標を立てて行うことが主流であったが、豊かさ、幸福度及び満足度などの質的なものにも目を向けなければならないという転換期ではある。しかし、どのように評価すればよいのか、どのような目標を立てて達成度を測るかについては、まだ十分に構築できていないところであり、ウェルビーイングという考え方を大切にしながら、質的な評価や目標設定をどう考えていくかを常に頭に置きながら、この場で議論していけばよいと感じた。

(大北教育長) 母数については、満足度が高くなると自ずと増えてくる
かもしれない、「少ない」と決めつける必要はない。

今回の計画(案)では、評価指標を厳選し、評価内容も変更した。
従来とは異なる試みとなるが、本計画は毎年度の点検・評価につな
がるものであり、評価指標がない課題についても点検・評価から除
外するというわけではない。どのようにバランスのよい評価につな
げていくかについては、今後、この教育委員会会議の中で協議した
い。

(2) 教育施設課報告事項

○大塚教育施設課長が次のように報告した。

学校施設の工事等の進捗状況について、10月から変更のあった
主な箇所について説明する。

自由が丘小学校及び自由が丘中学校の防犯対策施設整備工事(オ
ートロック)は、10月末に完了した。

自由が丘東小学校、三木中学校及び別所中学校の防犯対策施設整
備工事(オートロック)は、着工準備を進めている。また、その他
の学校の同工事についても予定どおり進めている。

学校給食調理場の見学及び試食会を11月17日に開催した。当
初23人から申込みがあったが、インフルエンザなどの体調不良に
より11人がキャンセルし、実際に参加したのは12人であった。
当日は、吉川学校給食共同調理場において実際に給食を作っている
様子を2階の見学通路から見学したほか、同日に中学生が食べる献
立の給食を試食として提供した。参加者からは、「給食を作ってい
るところを実際に見られたのがよかった」、「出汁から手をかけて
調理されており、おいしかった」などの肯定的な意見や試食会を引
き続き開催する意見があった。このため、令和8年度以降も試食会
の開催を検討していきたい。

(西岡委員) 第1子が小学校1年生のときは試食会があったものの、そ
の後、コロナ禍により開催されていなかった。令和7年度は末子と
の親子活動として試食会に参加した。他校についても試食会を開催
していると聞いている。

(大北教育長) 本見学及び試食会は、学校給食審議会において委員から「学校給食について多くの人に周知する機会をつくってはどうか」との意見が出されたことから実現した。

(3) 生涯学習課報告事項

○大西生涯学習課長が次のように報告した。

中央公民館の文化祭を11月22日及び23日に、自由が丘公民館の文化祭を11月23日及び24日にそれぞれ開催する。中央公民館については、11月22日は展示のみであるため留意されたい。

令和7年度三木市二十歳の祝典第4回実行委員会を11月23日に青山公民館で開催する。

(4) 図書館報告事項

○河端図書館長が次のように報告した。

青山公民館の15周年にちなみ、「15cmチャレンジ」を10月25日から11月2日まで青山図書館で開催した。借りた本を積み上げた厚みが15センチ以上であれば記念品のクリアファイルを、15センチ未満であればポストカードを贈呈するというイベントで、例年と比べて300冊、1割程度貸出冊数が増加した。

「トライやる・ウィーク受入れ」を11月10日から14日までの5日間実施し、中央図書館で8人、青山図書館で3人、吉川で2人の中学2年生を受け入れた。図書館にはさまざまな作業があり、大変な作業を行った際は疲れたであろうが、指導者である図書館職員の尽力もあり、よい体験をしてもらえたと自負している。

(5) 文化・スポーツ課報告事項

○大西文化・スポーツ課長が次のように報告した。

地域クラブみきタイプの進捗状況について報告する。

ソフトボールや書道など5つの地域クラブを11月13日付けでみきタイプの活動団体として追加で認定した。これにより先行実施のゴルフクラブを合わせ、みきタイプの認定クラブは26クラブとなった。

みきタイプ登録団体の指導者研修会を10月25日に市民活動センターで開催し、参加者は登録者の約半数の54人であった。なお、未受講の指導者については、別途指定の動画の視聴により研修を実

施する。

みなぎの書道展を10月11日から19日まで吉川総合公園で開催し、2,335人が来場した。最終日の19日には、表彰式を開催した。

特別企画展「一破壊魔の叫びー金剛仏子 公泉展」を10月11日から11月9日まで堀光美術館で開催し、来場者は1,557人であった。

「ふれあいサウンドメモリー2025第46回三木市民合唱祭」を10月26日に文化会館大ホールで開催した。

「金物まつり協賛芸能フェスティバル」を11月2日に文化会館で開催した。

スポーツ振興基金の主催による「少年スポーツ大会」を11月9日の空手道から令和8年1月10日の陸上競技まで、計10種目で開催し、200人を超える小学生が出場する。11月16日には、総合開会式をコロナ禍以降6年ぶりに、三木山総合公園総合体育館で開催し、約180人の選手が参加した。

「ふれあい文化の祭典」として「和太鼓フェスティバルin三木」を11月30日に文化会館で開催する。三木市からは、三木太鼓、別所ともえ太鼓及び吉川錦太鼓の3団体が出場する。

(稲見委員) みきタイプの認定クラブについて、かなり増えてきたと見受けられる。神戸市では活動場所が特定の場所に集中し、均一にならないという課題がみえてきたと聞く。三木市においても、認定クラブの活動場所を分布図により「集中している場所」や「薄い場所」などが分かれば、一つの起爆剤になることも考えられる。

また、8月から指導者バンクがスタートをしていると認識しているが、登録状況を教えていただきたい。

(大西文化・スポーツ課長) 活動場所の分布図については、ホームページで公開できるよう準備を進めたい。ただし、現在相談を受ける段階で、認定クラブがない地区があるため、公開の時期については検討したい。

指導者バンクについては、現在5人が登録している。指導者バンクについても、ホームページ等で公開し、指導者を求める地域クラブとのマッチングを事務局で行っていききたい。

(稲見委員) 現在のみきティブのホームページは辿り着くのが大変である。独立したホームページを作成する予定はあるか、お聞かせ願いたい。

(大西文化・スポーツ課長) 見やすいホームページを作成しようということで令和8年度の予算の要求を行っている。見にくいのは重々承知しているので、まず予算がしっかり確保できた時点で進めたいと考えている。

(梶委員) 2次元バーコード等により当該ページに導くことはできないのか。

(大西文化・スポーツ課長) 三木市のホームページのトップページの上部のバナーの中にみきティブがあり、そこをクリックすると「地域クラブ活動への展開」というページに移動するが、2次元バーコードについても今後作成するチラシに掲載するなど活用したい。

(大北教育長) 注目度が上がっているので、アクセスしやすいよう工夫されたい。

(石井委員) FMみっきいを聞いていると、みきティブの地域クラブの募集など、みきティブに関する呼びかけをよく耳にする。周囲の人にみきティブが何なのかということ聞かれる機会も増えた。例えば、対話形式で分かりやすくみきティブやみきティブができた背景について語っていただくなど、みきティブを知らない人向けの番組があれば、子育て世代以外の年齢層にも知名度が上がるのではないか。また、関心を持った人が支援者となるきっかけになるかもしれないと考える。

(大西文化・スポーツ課長) みきティブをテーマとしたトーク番組を放送できないか検討中である。

(石井委員) そのような番組が放送されることは楽しみであり、当該番組を聞かれたかたは、みきティブに関心を持たれると考える。ただ

し、身近に感じるようになるためには、1回きりではなく、短時間でも継続して放送されるようなものが必要ではないか。

(大西文化・スポーツ課長) ホームページの件と併せ、折に触れ、PRできるように進めていきたい。

(大北教育長) コマーシャルのように何回か同じものが流れるというイメージであろう。さまざま意見が出されたが、よろしく対応された。

(6) 学校教育課報告事項

○武内学校教育課長が次のように報告した。

修学旅行などの学校行事については、予定どおり実施した。自然学校については、三木小学校及び自由が丘東小学校を最後に、令和7年度の全ての学校が終了した。

第8回定例校園長会を10月29日に開催した。未来を創る学力育成プロジェクト会議の協議内容をはじめ、県教委が配置するスクールカウンセラーによる連携校での対応や、来年度の通級による指導に係る事前調査等について説明した。

また、11月10日から14日まで、トライやる・ウィークを実施した。参加した中学2年生は社会で働く体験を通して、地域との関わりの中で社会性を身に付けたり勤労観等について自分の考えを深めたりすることができた。

今後の予定については、令和7年度最後の修学旅行として、三樹小学校が11月24日に出発する。

(西岡委員) トライやる・ウィークを受け入れる事業所は減ってきているのか教えていただきたい。

(武内学校教育課長) 200以上の協力事業所がある中で、受け入れる側の高齢化などの理由により減少傾向にはある。しかしながら、新たな事業所に受入れを依頼するなど、協力事業所数の確保に努めていく。

(7) 教育センター報告事項

○小池教育センター所長が次のように報告した。

教育センターが実施した事業について報告する。

10月の教育相談の状況について、不登校に関する相談は4件であった。また、みっきいルームの見学も2件あった。

みっきいルームには、現在、中学校3年生が3人在籍しており、自分の進路について話題に出す機会が増えてきたため、不安げな様子が見てとれる。今後も学校と連携しながらしっかりとサポートをしていきたい。

「第31回三木市CGアートコンテスト表彰式」を12月13日に開催する。被表彰者は、グランプリから佳作まで、社会人を含む40人である。

続いて、青少年センターについて報告する。

岩壺神社秋季例大祭特別補導を10月18日及び19日に、第2回青少年健全育成啓発活動PTAパトロールを11月15日にそれぞれ実施した。

青少年健全育成ポスターについて、各学校から募集した図柄をポスターとして採用し、10月下旬に関係施設に掲示を依頼し、啓発に努めている。

(西岡委員) CGアートコンテストについて、令和6年度に報告を受けた際に、「生成AIによる作品かどうかを判断するのが難しく、今後のコンテストの手法を検討する」という発言があったが、その後本年度に変更点があるのかお聞きしたい。

(小池教育センター所長) 本年度については、生成AIの使用を禁止するという方向ではなく、CGアートであれば全て作品として応募可能とした。

審査員の中からは、「どこまでをオリジナリティとして認めるか」、また、「生成AIが作るものも原画が自分のオリジナルであれば、その出来上がったものもオリジナルと見てみなしてもよいのではないか」などの議論があり、審査が難しいという見解は令和6年度と変わっていないと感じている。

(西岡委員) 使用するアプリが限定されていたりするのか。

(小池教育センター所長) アプリについても特に指定はない。

(稲見委員) 白ポストについて、デジタル化の社会となり、コンビニなどでもあまり本を置いていない状況下で、白ポストの回収状況に何か変化はあるのか。

(小池教育センター所長) 社会の変化とともに、白ポストを活用して有害図書を廃棄するという事例は減ってきていると感じている。実際、白ポストを市内8か所に設置しているが、毎月回収する中で回収するものがないところもある。

事務局では、白ポストが果たしてきた一定の役割を評価しつつ、社会の変化も踏まえ、継続して有害図書が廃棄されていないポストについては精選していく方向で考えている。その結果、どのような影響が出てくるのかということも勘案しながら、数については徐々に減らしていきたい。

(8) 小中一貫教育推進室報告事項

○仲谷小中一貫教育推進室長が次のように報告した。

別所小中合同研修会を11月19日に別所中学校で開催し、英語の授業を小学校の教員並びに吉川小学校及び吉川中学校の教員が参観した。タブレットを活用した英語の授業を実施しており、新鮮であった。小学校の教員の感想の中には、「小学校を卒業し中学校へ進学した子について、子どもの成長などもみられてよかった」という意見があった。

先進地視察で11月25日に三重県伊勢市の施設一体型小学校・中学校（二見浦小学校・二見中学校）を訪問する。当該校は建設費がかなり安価に抑えられたと聞いており、実際に施設を見学し、研究したい。

最後に、FMみっきいのラジオ番組「仲田一彦の市政一直線」において、小中一貫について別所中学校の高森校長と市長の対談が放送された。当該動画を市ホームページで見られるので、御覧いただきたい。

(石井委員) 同番組をリアルタイムで聞いていた。対談形式で非常に分かりやすかった。

(8) 教育・保育課報告事項

○荒田教育・保育課長が次のように報告した。

令和8年度入園申込受付（認定こども園等の2号・3号認定児）を10月1日から31日まで実施した。現在は、審査と希望を確認しながら、各園に割り振りをしているところである。申請数は419件で、令和7年度入園受付数より減少している。傾向としては、0歳・1歳・2歳の申込みが多いという状況である。

令和8年度アフタースクール入所児童募集も同日程で行っており、申込者数が880人であった。令和7年度の入所児童数が843人であり、児童数は減少しているが、利用者数は増加している。共働きの世帯と核家族の増加といった社会情勢が影響しているのではないかと考えている。

日程第7 その他 なし

日程第8 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和7年12月19日午後2時から開催することを決定した。

閉 会

教育長が、令和7年11月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和 7 年 1 1 月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

署名委員

署名委員

記録者